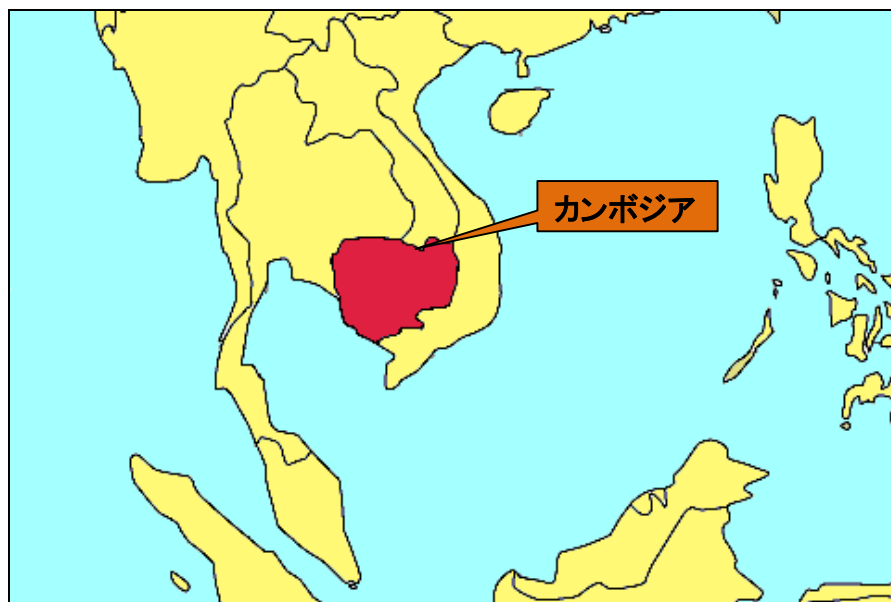


カンボジアのデング熱発生状況(2011年)

2012年1月4日 ProMED 情報(Xinhua News Agency<新華社>)



カンボジア保健省は1月3日、2011年は全国で少なくとも72名の子供がデング熱で死亡したと報告しました。これは、2010年の38名と比較して89%の増加です。また、2011年の報告患者数は15,805名で、2010年の12,500名と比較して26%の増加でした。

保健省のコメントによれば、デング熱は、3～5年の周期で大きな流行をおこしており、2011年は大流行の年となりました。その原因として、全国で8～10月に長雨が続いたことが考えられます。

デング熱は蚊が媒介する感染症です。突然発症し、頭痛、発熱、疲労感、筋肉痛、関節痛、リンパ節腫脹、発疹といった症状が出現します。カンボジアでのデング熱流行は、雨季に始まり、5～10月におこります。

〔ProMED 調整者〕 2011年12月20日、WHO 西太平洋事務局(WPRO)の報告によると、カンボジアでの2011年1月1日～12月6日までの患者数は15,736名、死亡患者数は72名で、死亡率が0.45%でした。2010年は、患者数が12,266名、死亡患者数が38名でした。